

小規模集落元気作戦

ただ今展開中!!

少子高齢化が著しく進み人口が減少する集落を対象に、その元気を高める「小規模集落元気作戦」が県内で展開されています。都市と集落のパートナーシップ（協力関係）を中心に据え、持続可能な「交流」をキーワードに、昨年度は県内16集落、今年度は10集落がモデル地域に選定されました。市内では、但東町薬王寺と竹野町三原がモデルとなり、住民の話し合いや交流事業に取り組んでいます。

《問合せ》経済振興課定住促進係 ☎21-9002

小規模集落の課題

中山間地域を中心に人口減少と高齢化が進み、集落としての運営・維持が難しくなっている集落が増えていきます。戸数50以下で高齢化率40%超という集落（県では小規模集落という）は、県内では200を超えるといわれ、



▲モデル地域の但東町薬王寺

市内でも40程度あります。

このような集落では、林業、農業などの担い手の高齢化や減少、後継者不足、集落活動の担い手不足、一体感の希薄化、耕作放棄地の増加、野生動物による被害、空き家の増加など、さまざまな問題を抱えています。どうすればよいのでしょうか。

小規模集落元気作戦とは

集落が一体となって課題に取り組んでいくことが出発点であるとしても、集落の活動だけでは、今後の人口減少や高齢化の進展を止められませんが、外からの力を借りることも考えながら、「交流」による



▲花見交流(薬王寺)



▲神戸での物産販売(薬王寺)



▲そば打ち交流(薬王寺)

50世帯119人(平成21年12月1日現在)

但東町薬王寺

但東地域の東部、京都府との県境に位置する山間集落。地域資源は、江笠山、農産物直売所「旬の里のぼりお」、大生部兵主神社と春の大祭など。

昨年10月から1カ月に1回ワークショップを開き、薬王寺の現状と課題を考えてきました。そして、今年、芦屋市のTioクラブと花見やそば



薬王寺区長
森 弘之さん

刈り、そば打ちなどで交流を巡りました。結果、自発的にやろうとする方も増えてきました。活動内容はその都度新聞を作り区内に配布しています。今後は、休耕田や空き家の活用についても考えていきたいと思っています。

薬王寺は、四季がとても美しい所で、おいしいものもたくさんあります。薬王寺の魅力を探し、面白い民話などを聞き、来るたびに新しい発見があります。農業体験や来るだけでも楽しく、元気になります。私たちの役割は、薬王寺の応援団です。1回の探訪的なものでなく、継続して交流ができるよう、都会の人に呼び掛けていきます。



Tioクラブ代表
西本佳子さん

熱心で一生懸命な薬王寺の皆さんのおかげでやっと軌道に乗りました。これまで、ワークショップでは、将来について考え、体験活動も取り入れながら活動してきました。今後は、休耕田を活用した体験農園など、薬王寺の活性化に向けた取組みを引き続きお手伝いしたいと思います。力を合わせて頑張っていきましょう。



アドバイザー
井原友建さん

地域づくりを検討していく必要があります。

そこで、県で、昨年度からスタートしたのが、「小規模集落元気作戦」。「都市と集落との交流」をキーワードとし、都市パートナーと連携した地域づくりに、各市町と協力し、取り組んでいるところです。

事業の流れ

事業は3カ年で、次の4つの段階で展開します。選定された県内26集落で、アドバイザーの力を借りながら、集落住民による地域づくりの合意形成、都市パートナーとの交流、拠点整備や本格的な交流の展開へと取組みを進めていきます。

①準備段階 集落住民の話し合い、合意形成

②第1段階 パートナー探しマッチング

③第2段階 交流インタビューシップ(お試し交流)の実施

④第3段階 交流拠点の整備など

交流とパートナー

小規模集落元気作戦の中心は、都市と集落の住民のパートナーシップです。

言うまでもなく、自然豊か

な集落では、住民が自らの力を合わせ、生活基盤を築き、地域づくりを進めてきました。

しかし、これまで集落が持っていた力が失われつつあり、地域のみだけで取り組むことが困難になりつつあります。そこで、一緒に地域づくりを進めるパートナーを創り出して、いこうというものです。それも、長く付き合えるパートナーです。

長く付き合うためには、顔が見える関係が必要で、集落が疲れてしまわないよう、おもてなしに終始しないように配慮する必要があります。

パートナーが見つけてくれるもの

都市の住民を集落に引き付ける魅力も必要です。

集落の中には住む人が意外と気付いていない「素敵なもの」があるはずで、生活の中に埋もれている資源を活用することで対等の交流関係をつくるのが大切です。

そうすれば、「来ていただく」関係ではなく、「行きたくなる」関係を上手く作ることでできます。集落の特産品の買い手になっ



▲ワークショップ(三原)



▲三原ハスマつり

てもらうのも良いですが、一緒に作る経験も共有することがより効果的な場合もあります。

集落には「こんなパートナーと交流したい」という考えを持つていただくのが大切です。

また、集落は、どのように集落の魅力を生かし、どのように地域おこしをするのか。漠然としたものでも良いので、語れるビジョンを持たなければなりません。集落の皆さんがどんなことに取り組みかを共有しておく

43世帯129人(平成21年12月1日現在)
竹野地域の南部、香美町と隣接する山間集落。地域資源は、ハス田、三原小学校跡、産霊神社など。

竹野町三原

今年7月から活動を始めました。毎月1回会議を開き、三原の問題点を掘り起こしたり、宝を探したりしています。三原は小学校の廃校後、さまざまなイベントを行うなど、むらづくりに取り組んできました。今回のモデル事業を活用し、集落外への情報発信や持続可能な交流を目指すとともに将来の三原のあり方について、じっくりと考えていきたいと思っています。



三原区長 長峰 是さん



アドバイザー 浜本晃司さん

「若い世代も三原に住み続け、みんなで楽しく三原の文化を育む」。三原に住む方の想いです。これまで年間の行事や共同活動、魅力ある地域資源などを整理し、三原の現状をみんなで見つめ直してきました。今後は、多くの方に三原の魅力や想いを伝え、三原を支えるつながりを生み出すチャレンジをしていきます。

必要があります。その際、無理のない持続可能な取組みを考えていくことを忘れてはいけません。交流は、外部からのエネルギーを呼び込むのに良い機会です。都市住民の視点やマンパワーを地域づくりに生かすことができます。市では、県の事業を参考に



▲薬王寺の元気新聞

しながら、市民の皆さんと「元気な地域づくり」を目指します。